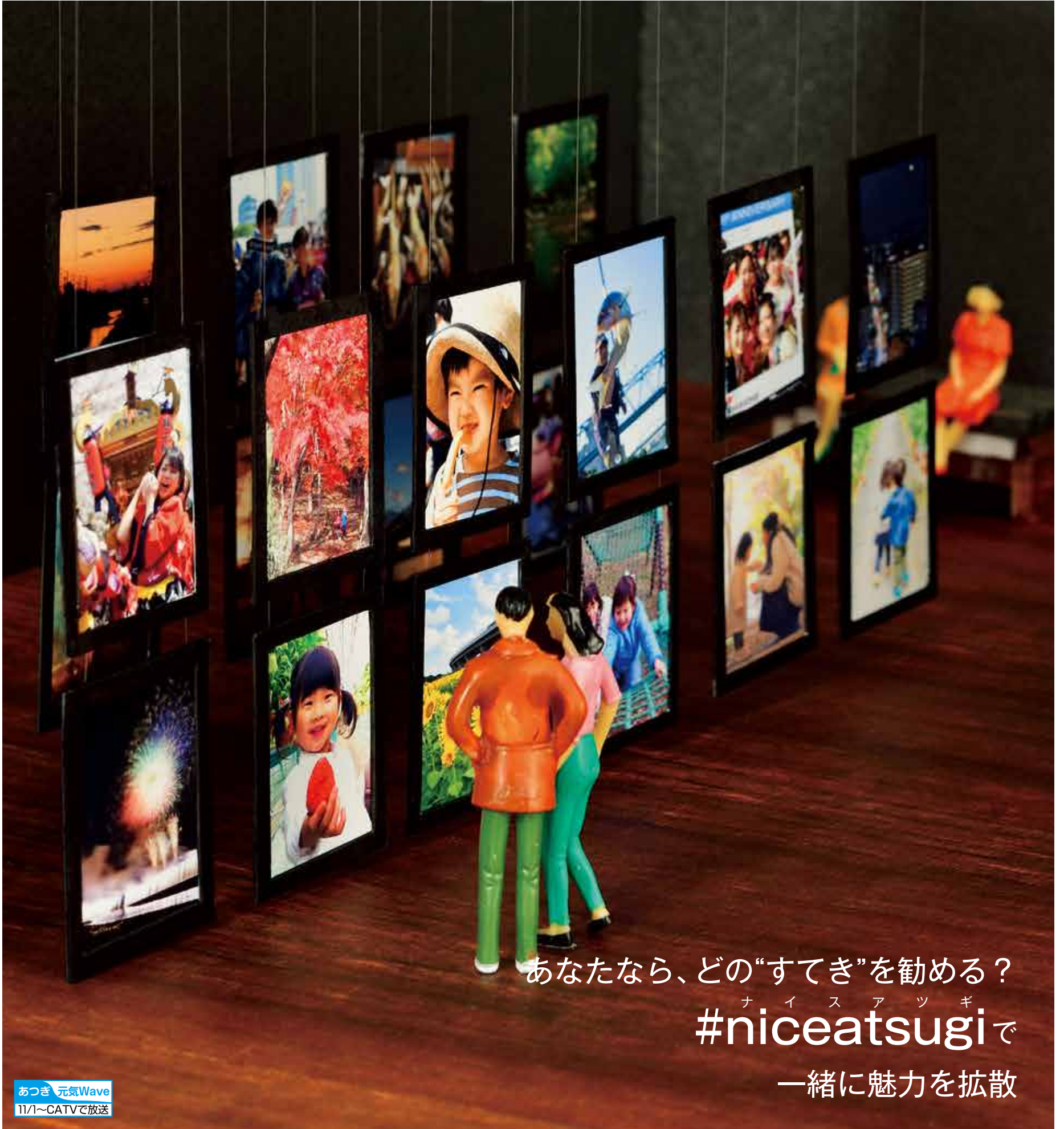


- ② 進むコミュニティ交通の検証
- ③ 商業支援でまちを元気に
- ④-⑤ 特集  
みんなで支える子育て
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ



あなたなら、どの“すてき”を勧める？

ナ イ ス ア ッ ギ  
#niceatsugiで

一緒に魅力を拡散

あつぎ 元気Wave  
11/1~CATVで放送

皆さんが投稿した  
「#niceatsugi」の写真が、  
フォトブック・展示に！

《投稿期限》12月7日

■フォトブック

観光協会や市内ホテル・旅館などに置き、厚木の魅力発信につなげます。

■展示

《期間》2月9日~3月2日  
《場所》アミューあつぎ

## # niceatsugi とは？

一人一人が発信者となって厚木の魅力を市内外に伝えるため、市内企業の社員や大学生でつくる「地方創生推進プロジェクト」が考案したハッシュタグ(※)。SNSで投稿する時に、「#niceatsugi」と付けて使います。

※「#(半角のシャープ)」を付けて使うSNS利用者共通の検索ワード。同じ話題を投稿している人同士で情報共有でき、検索した人に投稿を見つけてもらいやすくなる。

詳しくは [ナイスあつぎ](#)

企画政策課 ☎25-2450

「厚木のすてきなところは？」と聞かれたら、どんな光景を思い浮かべますか？豊かな自然やおいしい食べ物、大切な人の笑顔がこぼれた思い出の場所。厚木のすてきな景色は、きつと誰もが心の中に持っています。そんな皆さんにとつての「ナイスなあつぎ」をみんなで共有するため、2019年に作ったハッシュタグ「#niceatsugi」(左欄参照)。1年で、インスタグラムやツイッターでの投稿件数が1万件以上になりました。

3月、厚木の魅力をより多くの人に届けるため、皆さんが「#niceatsugi」を付けた投稿をフォトブックにまとめます。それに先駆け、2月には写真展も開催。少子高齢化などで人口減少が見込まれる中、いつまでもたくさんの人を選ばれるまちであり続けるため、一緒に厚木の魅力を発信しませんか。



Zoom Up

来年から一部地域で運行を開始

# 進むコミュニティ交通の検証

市では、買い物や通院で移動に不便を感じている方を支援するため、地域の皆さんと協力して「コミュニティ交通」の導入に取り組んでいます。2018・19年に期間限定で試験的に運行した「まつかけ台みはる野」「鷲尾」の2カ所では、定着に向け来年1月から3年間の継続運行を始めます。

高齢化が進み、これまで通り車の運転や外出をできない人が増える中、日常生活での移動手段の確保は全国共通の課題です。市内でも、既存の路線バスの他に、地域内での交通の充実を求める声は年々高まっています。市では、高齢者の多い同地区で、2018年からコミュニティ交通の試験運行を開始。地域の皆さんと必要性や継続性について話し合い、継続運行を決めました。

## 試験運行で必要性を確認

19年の試験では、同地区で16週間、



地域住民が添乗して運行をサポート

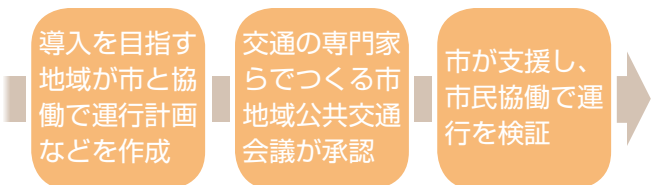
週3回1日6便、8人が乗車できる車両を運行しました。18年は無償だった運賃を100円とし、ルートや時間を必要の多い買い物重視した運行に変え、利用状況と比較。1便当たりの利用者数が50%ほど減ったものの、一定の需要があることを確認しました。週1回ほど利用していた橋本ヤオ子さん(81)は「ちよつとした用事で気軽に利用できて便利。乗り合わせた方との世間話も楽しく、外出が楽しみな became」と話します。

結果を踏まえ、今後の運行では便数を減らすよう調整。周辺住民へのアンケートで「遠慮してしまった」「運行を知らなかった」といった声があったため、改めて広報活動に力を入れるなど、定着に向けて準備を進めていきます。

## 地域が主体となって運行

市のコミュニティ交通は、導入を目指す地域の皆さんが主体となって運行する仕組みです(左欄参照)。同地区では、運行ルートの検討や広報活動、車両への添乗などを地域の皆さんが担当。実情に合った運行となるよう、市と協働で取り組んでいます。運行を支

## コミュニティ交通の導入の流れ



## 住民による地域のための交通を

コミュニティ交通の運行には、予算や人手が掛かります。地域全体がそのことをきちんと理解した上で、本当に必要なサービスかじっくりと検証し、適切な支援が行き届く仕組みをつくるのが大切だと思います。導入するからには、利用者が運行に合わせて生活スタイルを変えてみるなど、新たなサービスに寄り添う工夫も必要です。全ては自分たちの将来のため。引き続き、市と連携しながら地域に合った移動手段を考えていきたいです。



コミュニティカフェ荻野 中山喜美子さん(70)

誰もが住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けるには、気軽に外出できる環境が欠かせません。市では、神奈川中央交通株式会社とのバス割引乗車券「かなちゃん手形」の購入費助成やタクシー利用券の交付などで高齢者の外出を後押ししています。今後は、地域での新たな交通手段の検討もサポートしていきます。

生活の足の確保は、定住促進にも効果が期待されます。年を重ねても生き生きと暮らせるまちづくりを、市民の皆さんと協働で進めていきます。

## 5事業が要改善 市民参加型外部評価の結果

評価結果	対象事業
現行どおり	観光プロモーション事業補助金
要改善	放置自転車対策事業費 不法投棄防止対策事業費 観光資源体験事業費 観光情報発信事業費 観光プロモーション事業費

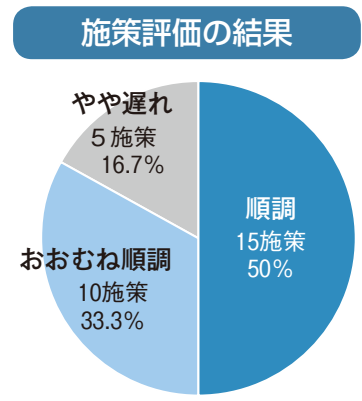
※拡大・縮小・廃止と評価された事業はなし

行政経営課 ☎225-2160 詳しくは [厚木市 外部評価結果](#) [検索](#)

## 8割が「おおむね順調」以上 施策評価の結果

市では毎年、将来のまちの方向性を定めた総合計画「あつぎ元気プラン」の進捗を検証するため、施策評価を実施しています。今回は30施策のうち、15施策が「順調」、10施策が「おおむね順調」、5施策が「やや遅れ」と評価されました。

企画政策課 ☎225-2455

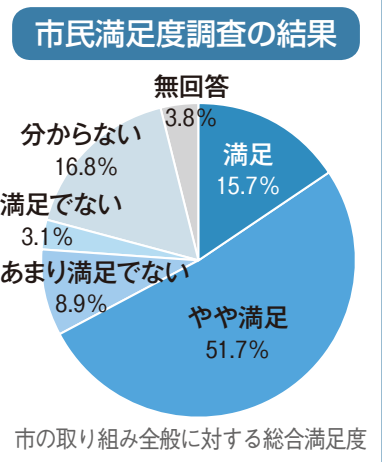


**施策評価って何?**  
市民の皆さんに市の事業などへの満足度を聞く「市民満足度調査」の結果や、保育施設への入所率、ごみの資源化率といった各施策の目標に対する達成率を点数化。進捗を4段階で評価します。

**今回のポイント**

- ☑新型コロナウイルスが13施策の進捗に影響
- ☑総合得点は22施策で低下
- ☑満足度は37項目中24項目で上昇。特に高かったのは、「資源とごみの分別の取組」「公園など緑豊かな生活環境の整備」「環境美化の推進」

詳しくは [厚木市 施策評価結果](#) [検索](#)







電子商品券はテイクアウトでも利用できる

## Zoom Up

# まちににぎわいを取り戻す 商業支援でまちを元気に

コロナ禍で大きな打撃を受けた商業を支援するため、市独自の対策としてキャッシュバック事業や補助金の交付を実施してきました。11月からはプレミアム付き電子商品券の抽選申し込みを開始し、今後も商業店舗を支援します。

市内企業を対象に6月末に実施した景気動向調査によると、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに全業種で景況が悪化しました。特に飲食業は最も大きな影響があり、地域経済回復に向けた商業の支援は喫緊の課題です。

## 約3億7千万円を支援策に

市では約3億7千万円の補正予算を組み、三つの事業を始めました(左欄参照)。一つ目は、市内で1万円以上買い物をする2千円が戻るキャッシュバック事業。市内での消費を促すと同時に、家計も支える取り組みです。応募総数は上限の5万件を超え、合計5億円以上の経済効果が生まれました。二つ目は、商業店舗応援補助金です。独自のサービスや特典など、再来店を促す取り組みをする店舗に10万円を交付。11月13日からは、補助金を交付した約800店舗でお得なキャンペーンを一齐に始めます(下欄参照)。中町で飲食店を営む谷川敏弘さん(31)は「2月に開店したものの3月からキャンセルが増え、厳しい状況だった。補助金を活用してお客さんに還元できる

のはうれしい。これをきっかけに盛り上げていければ」と期待を込めます。

## 電子商品券で飲食業を支援

三つ目は、感染症で最も大きな影響を受けた飲食店を支援するプレミアム付き電子商品券。市内150以上の飲食店で使える5千円分の商品券を、3千円で購入できます。合計5万セットを抽選で販売し、11月1日から申し込みを開始(下欄参照)。購入は一人2セットまでで、来年1月末まで使えます。スマートフォンと電子スタンプを使って簡単に決済でき、現金のやりとりがないため感染リスクも抑えられます。

## 感染対策とにぎわいを両立

席の間隔の確保や消毒など、感染対策を県の感染防止対策取組書に登録した店舗にはのぼり旗を配布(下欄参照)。入店前に確認することで、安心してお店を利用できます。市では今後も感染対策を徹底しながら商業を支援し、まちのにぎわい創出を目指します。

問 商業にぎわい課 ☎251-2840

## コロナに負けない! 商業支援の取り組み

### 受け付け中 飲食店応援電子商品券

市内の飲食店で使えるプレミアム付き電子商品券を販売。申し込みから決済まで全てスマートフォンで手続きが完了。

11月1日～抽選申し込み受付開始(下欄参照)

### 交付店舗決定 商業店舗応援補助金

再来店を促す取り組みをする市内の商業店舗に10万円の補助金を交付。

11月13日～交付店舗約800店で、次回来店時にお得なサービスが受けられるキャンペーンを実施(下欄参照)

### 終了 生活応援キャッシュバック事業

市内の商業店舗で1万円以上買い物をした方に2000円をキャッシュバック。9月に募集し、5万人に還元。

150以上の飲食店で使える

## プレミアム付き電子商品券 申し込み開始

使用可能店舗ステッカー



プレミアム付きのお得な商品券の申し込みが始まります。

申し込み期間 11月1～15日

《対象》 市内在住・在勤・在学の方  
《販売額》 5000円分を3000円で販売  
《販売数》 5万セット(1人2セットまで)  
《使用期間》 12月1日～1月31日

専用HPから申し込み(クレジットカード決済のみ)。抽選結果は11月20日にEメールで通知

詳細



約800店舗で一齐にお得なサービスがスタート

## にぎわいかムバックキャンペーン

補助金を交付した店舗でお得なキャンペーンを実施します。この機会に市内での買い物を楽しんでみませんか。

実施期間 11月13～23日

《キャンペーン内容》  
再来店を促すサービス

《例》 次回来店時に1ドリンクサービス、次回来店時に使えるクーポン券を配布など

実施店



お店の感染対策を  
見える化

県の感染防止対策取組書に登録したお店にはのぼり旗を掲示



11月9～15日

## 秋の火災予防運動



スローガン「その火事を 防ぐあなたに 金メダル」

期間中は、消防本部や消防署、消防団が、立入検査や消防車の巡回を実施します。



11月9日の7時に、吹鳴試験のため市内全域でサイレンを鳴らします

## 「いざ」という時のために 住宅用火災警報器の点検を

火事から命を守る火災報知器は定期的な点検と交換が必要です。この機会に点検しましょう。

ボタンを押す

ひもを引く

**点検方法**

- ① ボタンを押す、またはひもを引く(メーカーにより異なる)
- ② 正常に動作していれば「ピーピー火事です」などと音が鳴る

!音が鳴らなければ電池切れもしくは故障の可能性があります

警報器にほこりがつくと煙や熱を感知しにくくなるため、定期的に清掃・点検し、10年を目安に交換しましょう。

問 予防課 ☎223-9371





「これはなあに？」と会話を交えながら一緒に絵本を楽しむ広田さん

地域の皆さんが子どもの一時預かりや幼稚園への送迎などを担い、子育てを支援するファミサポ、サポート・センター制度(ファミサポ)。共働き家庭などが増え、子どもの預かりの需要が高まる中、市内では40人が提供会員として活動し、地域の子育てを支えています。

「この生き物は何か」「カエルだ」。大好きな生き物を見て、うれしそうに駆け寄る女の子。絵本を読む広田由美さん(56・恩名)も、思わず笑みがこぼれます。この日、市内の児童館では、感染症の影響でおよそ半年振りとなった読み聞かせイベントが開かれました。

広田さんは18年前、子どもが通っていた幼稚園で読み聞かせに出会ったのをきっかけにサークルへ参加しました。絵本を通して子どもたちと関わったり、お母さん同士で話ができたりの活動は生活に欠かせないものになっていきまし。長男が成人した今も、当時のメンバーでサークルを立ち上げ、小学校や児童館で活動を続けています。広田さんは「何かをしなければよと気負わず、自分が一番楽しんでいるから、こんなに長く続けられているのかな」とほほ笑みます。

「子育て中の親にとって、同じ境遇の人や近所の人と言葉を交わす時間は、心安らくひとときです。地域には、子どもを連れて集まれる場所がたくさんあります。自身の趣味や経験を生かして、子どもとの触れ合いを楽しみながら、親の居場所をつくる活動を紹介いたします。

### できることから始めませんか どんな支援の方法がある？

地域の子育てに関するにはいろいろな方法があります。生活のリズムに合わせて、自分にできる関わり方を見つけてみませんか。

#### あなたの生活に合う関わり方は？

- 1 子育てアドバイザーへ  
平日の午前中から夕方まで時間があります。自分の予定に合わせて合わせられるならやってみたいです。
- 2 ファミサポ提供会員へ  
週に数回、空いている曜日や時間があります。送迎ならできるかも？
- 3 地区子育てサロンボランティアへ  
平日の午前中に空き時間があります。活動日や時間は決まっていた方が動きやすいです。
- 4 日常の中でできることへ  
仕事などで忙しくて、なかなか空き時間ありません。普段の生活でできることはありますか？

# みんなで支える子育て

核家族や共働き世帯が増え、待機児童や子育て負担の増加が全国的な課題になっている現代。まちの未来を担う子どもを健やかに育てることは、地域の役割でもあります。特集では、地域で子育てを支える皆さんの姿から、さまざまな支援の形を考えます。

☎子育て支援センター ☎225-2922



幼稚園が終わり、駆け寄る翔くんを迎える鈴木さん夫婦

「翔くん、おかえり。今日は何か楽しかった？」「塗り絵！」。夕方16時30分、幼稚園の駐車場。鈴木義孝さん(77・長谷)は、駆け寄ってきた男の子を車へ迎え入れていました。義孝さんは7年前から、ファミサポ提供会員として妻の幸子さんと一緒に地域の育児を手伝っています。

義孝さんがファミサポの活動を始めたのは、70歳の時。民生委員として活動していた際、一人親の家庭などと接する機会が増え、自分も何か力になれないかと考えたのがきっかけでした。今は時間や条件が合う二つの家庭を、幼稚園の送迎や1時間程度の預かりなどで支援しています。鈴木さんに送迎と預かりを依頼している胡光華さん(36・長谷)は「鈴木さんの家から帰ると、子どもたちは『僕の好きなお菓子をくれたよ』といったが暖かかったんだ」など楽しそうに話してくる。私も安心して預けられ、助かっている」と話します。

自身の息手たちが幼い頃は仕事で忙しく、思うように子どもとの時間が取れなかった義孝さん。定

## 絵本を通じて広がる輪 読み聞かせボランティア

結婚を機に厚木へ越してきたため、子どもが生まれたばかりの頃は知り合いがほとんどいませんでした。おしゃべり好きなので近所のお母さんたちとはすぐに仲良くなれたけれど、初めはやっぱり不安だった」と当時を振り返ります。児童館などで読み聞かせをするときは、同じように子育てで不安を抱えるお母さんたちの居場所をつくるきっかけになればと、率先して子育ての悩みや相談を聞くよう心掛けています。読み聞かせの催しに参加した神野かおりさん(38・温水)は「子どものことから何気ないことまで、いろいろ話せてほっとした」と話します。



母親たちとの会話も弾み、笑顔が絶えない



お菓子を食べたり一日の出来事を話したりして過ごす

共働きの夫婦が増え、多くの家庭が仕事に育児にと忙しい日々を送っています。そんな中「本当に助かった」と感謝されると、できる範囲で続けようと思う」と口をそろえる鈴木さん夫妻。これからは子どもと過ごす時間を楽しみなが、地域の子育てを支えていきます。

年後は、その時間を取り戻すように孫たちをかわいがりました。孫が成長して一緒に過ごす時間が減った今、義孝さんは「預かっている子を迎えに行った時、『じいじ！』と駆け寄ってきたりすると本当にうれい」と照れ臭そうに目尻を下げます。「愛情を持って誠実に接していれば、子どもも自然に心を開いてくれるみたい。預かりを終えた子も、道で会った笑顔で手を振ってくれたり、庭で採れた野菜を持ってきてくれたりと、温かい縁が続いています。

孫と遊ぶような気持ちでファミサポ提供会員

### 子育てを支える人の声 私はこんな活動をしています！

市内では、約600人以上の方が子育て支援の活動に携わっています。皆さんがどのように活動をしているのか紹介します。

**自分のペースでできる支援**

ファミサポ提供会員  
上市美和さん (46・愛宕)

「子育て支援」と聞くと、ボランティアやサークル活動を想像するかもしれませんが、地域全体で親子を温かく見守る空気をつくることも、大切な支援です。子育て中のお母さん・お父さんは忙しく、時間や心に余裕がないことがよくあります。そんな時にほっとできるような声掛けや気遣いが、地域に広がっていくと思います。

**一緒に成長を見守る喜び**

子育てアドバイザー  
川内春美さん (50・寿町)

子育てアドバイザーの資格を取り、ほっとタイムサポーターとして活動しています。月に4回ほど、赤ちゃんのいる家で料理や買い物などの家事をお手伝いしています。自分の子育て中は余裕がなく気付かなかった子どもの成長を、お母さん・お父さんと一緒に見守ることができ、とてもやりがいを感じています。

**「お世話」ではなく「一緒に遊ぶ」**

地区子育てサロンボランティア  
瀧見ひろ子さん (71・及川)

月に1回ほど近くの公民館で子どもたちと触れ合い、親御さんとの会話も楽しんでいます。活動中は「お世話をする」という意識ではなく、「子どもと一緒に楽しく遊ぶ」という気持ち。自分のタイミングで活動できるので、とても気楽に参加できています。

- 1 子育てアドバイザー [無償]  
内容 子育て支援センターや児童館で、保育士や指導員と一緒に乳幼児と触れ合う。  
必要事項 会員登録、事前講習会  
●ほっとタイムサポーター [有償]  
内容 きょうだいの世話やおむつ交換などの育児支援、食事や洗濯などの家事支援。対象は産後6カ月までの乳児がいる家庭。  
必要事項 資格要件あり  
☎子育て支援センター ☎225-2922
- 2 ファミサポ提供会員 [有償]  
内容 自宅での預かりや保育施設などへの送迎。対象は3カ月～小学6年生。  
必要事項 会員登録、事前講習会  
☎ファミリーサポートセンター ☎225-2933
- 3 地区子育てサロンボランティア [無償]  
内容 午前中に1時間程度、公民館や児童館で民生委員などと一緒に乳幼児と触れ合う。  
☎社会福祉協議会 ☎225-2789
- 4 日常の中でできること  
子どもを連れて人に電車やバスで席を譲る、困っていたら声を掛ける、近所の親子にあいさつをするなどの心掛けも支援につながる。



## 認知症への理解を深める 「あつぎオレンジフェスタ」を開催



参加者が認知機能測定を体験

9月21日の世界アルツハイマーデーに合わせ、本厚木駅や中央図書館などで認知症への理解を深める「あつぎオレンジフェスタ」を初めて開催しました。

イベントでは、認知症地域支援推進員による相談や介護施設を舞台にした映画の上映、認知症サポート員養成講座などを実施。他にも、講演会や学習会などで情報交換をする「認知症を抱える家族すみれ会」による相談や活動をまとめたパネルも展示されました。

同会の岡野陽子会長は「認知症の人が近くにいいたら、温かい目で見守り、何か求めているようにあれば優しく声を掛けてもらいたい」と話しました。

## 山間部の事故に備えて 川崎市と合同で山岳救助訓練を実施



要救助者をぼうさいの丘公園に搬送

山間部で事故や災害が発生した際の救助体制を強化するため、9月に市消防本部と川崎市消防局が七沢地内で合同救助訓練を実施しました。

訓練は、近年増加する登山者からの救助要請を想定。航空機が着陸できない山間部で、空中に停止させたヘリコプターへ要救助者を収容し、ぼうさいの丘公園まで搬送しました。

訓練に参加した職員は「実際にヘリコプターを使って訓練できる貴重な機会。他市の隊員と顔の見える関係を築き、いざという時の連携を深められるのもメリット」と力強く語りました。



## 圏央道の交通利便性が向上 厚木PAスマートICが開通

市と中日本高速道路株式会社（NEXCO）が整備した厚木PAスマートインターチェンジ（スマートIC）が、9月に開通しました。

スマートICは、着工から2年で完成。ETC（自動料金支払いシステム）を搭載する車が全方向に24時間出入りできます。依知地区や座間市方面へのアクセスが向上し、物流の効率化による企業誘致の促進や交通渋滞の解消、救急活動の時間短縮などが見込まれます。

開通に当たり小林市長は「10年前に計画が始まり、ようやく開通できた。今後はスマートICを核とした経済活動が進むよう、契機としていきたい」と期待を込めました。



開通当日に記念式典を開催

## 元なでしこジャパンが異例の挑戦 永里優季選手がはやぶさイレブンに移籍

厚木市出身のプロサッカー選手・永里優季さんが10月に、シカゴ・レッドスターズ（アメリカ）から厚木市のサッカーチーム・はやぶさイレブンに移籍しました。

はやぶさイレブンは総合型地域スポーツクラブ「SCDスポーツクラブ」が昨年設立し、兄の源気さんも所属。妹の亜紗乃さんも8月に同クラブのフットゴルフチームに加入しています。

優季さんは「男子とプレーするという、新しい挑戦を受けてくれたチームに感謝している。海外でプレーして、地元への応援のありがたさを強く感じてきたので、大好きな厚木に貢献できれば」と語りました。



左から亜紗乃・優季・源気選手

## アツギ X ニュージーランド ホストタウン通信

### 共生社会ホストタウン事業 [Unity in Diversity NZ Program]の参加者募集

車いすラグビーNZ代表チームの受け入れをサポートする高校生を募集します。共生社会とNZについて学んだり体験したりして、来年のパラリンピックに出場するチームをサポートしてみませんか。



昨年、相川小を訪れたNZ代表チーム

- 《内容》NZ代表選手とのオンライン交流などで「国際交流」を体験し、ボランティアを経験して分け隔てなく暮らせる「共生社会」を学ぶ
- 《期間》11月～2021年3月（全10回程度）
- 《対象》市内在住在学の高校生10人
- 《費用》無料



詳しくはこちら

11月1～10日に企画政策課へ。応募者多数の場合は選考。 ☎2051021

東京オリンピック・パラリンピック（東京五輪）に向けて、ホストタウンとなったニュージーランドとの交流事業を紹介します。

新型コロナウイルスは、私たちの生活を変えました。そんな中、民間住宅情報サイトによる「コロナ禍での借りて住みたい街ランキング（首都圏版）」で、本厚木駅が第1位になりました。都内へのアクセスの良さや自然と都市との調和に加え、市民協働で進めている住みやすい環境が評価されたと感じています。

皆さんに選んでもらえるまちであり続けるには、子育て支援や安心安全

2024年度の完成を目指す酒井地区で起工式が催され、本格的な整備に入りました。企業が進出することで、雇用の創出や地域経済の活性化につながると確信しています。

「厚木市に住みたい・住み続けたい」。そう思ってもらえるまちにするために、私は全力で市政運営に当たっています。いつまでも厚木市に活気があふれるよう、将来を見据えたまちづくりを進めてまいります。



酒井地区の土地区画整理事業の進捗を視察

全の取り組みなどに加え、ハード面の整備も大切です。現在、本厚木駅南口や中町第2地区、厚木秦野道路などの整備を実施。さらに、森の里東・酒井の2地区では、新たな企業誘致に向けた土地区画整理事業が進んでいます。10月には、



# タウンガイド

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号  
 ㊚=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ  
 ㊚=講座予約システム(㊚印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「㊚」)と記されたものは、申し込み可  
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

## あつぎのしゃしん。



「秋の風景」

#10月7日撮影  
 #彼岸花  
 #稲架掛け  
 #niceatsugi  
 広報課公式インスタグラムで公開中



### 新型コロナウイルス感染症に関する県の相談窓口

**帰国者・接触者相談センター**  
 高熱や息苦しさ、強いだるさがある人など(24時間対応)  
 ☎(0570)056799

**新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル**  
 微熱や軽いせき、感染に不安のある人(毎日9~21時)  
 ☎(0570)056774

新型コロナウイルスの影響で掲載の催しが中止となる場合や、利用に制限のある施設があります。市HPで随時お知らせします。

### 特効！糖尿病予防のマル秘テク講座

12月8日、14時~15時30分。小鮎公民館。保健師、栄養士から高血糖の予防を学ぶ。血管年齢・骨健康度測定も開催。市内在住の40~64歳15人。無料。☎11月2日から健康づくり課☎225-2201へ。先着順。

### 睡眠力アップ基礎講座 眠れるココロとカラダの作り方

12月7日、14時~15時30分。緑ヶ丘公民館。保健師から睡眠と健康の関係や眠りの改善方法を学ぶ。精神保健福祉士によるゲートキーパー養成講座も開催。香り袋作り体験あり。市内在住の40~64歳15人。無料。☎11月2日から健康づくり課☎225-2201へ。先着順。

### フードバンクの活動に協力を

食品ロスを減らすため家庭で余った食品を募集し、必要な家庭に無償で提供します。

《日時》11月18日、10~15時《会場》あつぎ市民交流プラザ。☎当日直接会場へ。☎Heart34☎220-5088(10~16時)。

### 斎場施設見学会

11月19日、10時30分~12時。市斎場。施設見学と葬儀の説明。定員30人。無料。☎11月1~18日に市斎場☎281-8595へ。先着順。

### あそぼう！まなぼう！まめの木タイム

11月30日、11~12時。厚木南児童館。手遊び・親子触れ合い遊び、

### もしもの時に大切な命を守る

## 救急救命講習会

心肺蘇生の手順や機器の使い方を学び、いざという時に備えませんか。

### ■応急手当普通救命講習会

《日時》12月①3日②12日 9時~

《対象》市内在住に勤在学の中学生以上15人

### ◆小児・乳児への応急手当普通救命講習会

《日時》12月9日 13時30分~

《対象》市内在住に勤在学の中学生以上8人。託児あり(1歳以上3人)。

いずれも各回180分。消防本部。応急手当の必要性、心肺蘇生法、自動体外式除細動器(AED)の取り扱いなど。無料。☎11月16~25日に救急救命課へ。抽選。☎①2041015②1941008◆2041016

☎救急救命課☎223-9365



### ホット インターネットモニターからの意見を紹介



インターネットモニター募集中

厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課☎225-2043

### 10月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆近隣市町村は外という感覚だったが、身近に思えた/50代男性 ◆市町村の垣根を越えた交流は素晴らしい/50代女性 ◆今まで知らなかった地元の自然や魅力をたくさん知れた/60代男性 ◆地元の魅力を再発見したいと思った/20代女性 ◆コロナに負けず、近場で楽しみを見つけた/40代女性 ◆利用者の多いLINEで情報が発信されるのはとてもいい取り組み/40代女性 ◆災害はいつ起きるか分からないため、日頃の備えは大事だと思った/30代女性

申請は郵送で



## 放課後児童クラブの入所児童を募集

市内23小学校区にある放課後児童クラブで2021年度の入所児童を募集します。

《対象》①各学区内の小学生②保護者全員が就労(15時以降まで勤務)や疾病などで放課後に適切な保育ができない③保護者などが19時までに迎えに来られる一の全てを満たす児童

《費用》育成料=月額4000円(18時まで)、4800円(19時まで) クラブ費=月額3500円(おやつ代、教材費他)

《時間》平日(学校休業日を除く)=放課後~19時まで。土曜、長期休業日など=7時30分~19時。日曜、祝日、夏休み中の学校閉庁日、年末年始は休所。

☎子ども育成課や放課後児童クラブ、市HPなどにある申請書に必要な書類を添え、11月24日~12月4日(消印有効)に〒243-8511子ども育成課へ。

☎子ども育成課☎225-2582

発達に関する講座など。乳幼児と保護者10組程度。☎当日直接会場へ。☎療育相談センター☎225-2252。

### 公共施設最適化検討委員を募集

公共施設の在り方や適正配置などを審議・検討する委員を募集します。

《対象》①市内在住に勤在学で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(年3回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない一の全てを満たす方2人《任期》委嘱の日から2年《報酬》1日7800円(交通費含む)。☎行政経営課や市HPにある申込書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで11月17日(必着)までに〒243-8511行政経営課☎225-2160・☎225-3732・✉0600@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

### 教育委員会委員の任命

教育委員会委員の任期満了に伴い、10月16日付けで宮崎昌彦氏(62)が任命されました。☎教育総務課☎225-2600。



### 生産緑地地区変更に伴う都市計画変更案の縦覧と意見書の受け付け

《期間》11月2~16日(土・日曜、祝日を除く)《場所》都市計画課《意見書提出》11月16日(必着)までに直接または郵送で〒243-8511都

市計画課☎225-2401へ。

### 給与支払報告書などの配布

11月16日から給与支払報告書の総括表や個人別明細書などを配布します。

《配布場所》市民税課窓口《対象》事業所や事業主の方。☎市民税課☎225-2011。

### みんなの声でつくるまち

#### 《パブリックコメント》

■都市計画法第53条許可取扱基準の一部改正

☎都市計画課☎225-2401。

◆第2次スポーツ推進計画(案)の策定

☎スポーツ推進課☎225-2531。

いずれも閲覧期間は11月2日~12月2日。閲覧場所は、各担当課窓口、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、保健福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、市HP、(◆は玉川・厚木野球場、東町・猿ヶ島・南毛利スポーツセンター、荻野運動公園)《応募方法》閲覧場所にある用紙で確認。

#### 《意見交換会》

■第2期消防力整備計画(案)

11月10日、19~20時。消防本部。手話通訳・要約筆記あり。☎電話またはファクス、Eメールに意見交換会名、氏名、電話番号を書き、11月6日までに消防総務課☎223-9366・☎223-8251・✉6300@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

### 編集後記

地域の子どもの預かりや送迎などに熱心に取り組む人たちを見て、子育てにはたくさんの人の手が必要なのだと実感しました。自分も大人になるまでに、父や母だけではなくたくさんの人たちの支えがあったのだらうと思いました。母に子育てしていた時のことを聞くと「近所の人たちとの縁が支えになっていた」と話しており、自分も今度は支える側になるために小さなことから始めようと思いました/土田



# 国内3市・海外3市 友好都市と育む絆

市は、6市と友好都市を締結し、文化・スポーツ・教育など、幅広い分野で交流してきました。感染症の影響がある中、写真展やオンラインなどで交流を続けています。交流の情報は、広報紙や市HPでお知らせしていきます。  
☎企画政策課 ☎225-2050



## 友好都市写真展

横手市35周年、網走・軍浦市15周年を記念した写真展を開催中です。

**期間** 11月18日まで  
**場所** 本厚木駅東口地下道



35周年  
締結  
1985年5月24日

横手市

横手市とは、国内で最も早く友好都市を締結しました。「東北の小京都」ともいわれる美しいまちで、豊かな自然が織りなす四季折々の祭りが開催されています。

**人口** 8万7777人 **面積** 692.8平方キロメートル  
**交流** 祭りなどへの交流団派遣、子ども会の相互訪問、マラソン大会への選手団派遣、こどもアート展への参加、物産の相互販売など

### コロナ禍でも 交流の灯を絶やさないで

横手市友好親善大使  
榊原 勇城さん(83・飯山)



1996年に雪まつりの訪問団として、初めて横手市を訪れました。人の温かさやまちの情景に魅せられ、以来、毎年訪問しています。水彩画を描くので、個展も横手市で開き親交を深め、2004年に横手市長から友好親善大使に任命いただきました。今年は感染症の影響で訪問できていませんが、知人と連絡を取り合い、再び会える日を楽しみにしています。



糸満市

締結 2018年8月4日

**人口** 6万2270人 **面積** 46.63平方キロメートル  
**交流** 中学生平和学習、スポーツ相互訪問



ニューブリテン市

締結 1983年5月31日

**人口** 約7万2千人 **面積** 35.7平方キロメートル  
**交流** 子どもアート展への参加など



15周年  
締結  
2005年2月5日

網走市

**人口** 3万4996人 **面積** 471平方キロメートル  
**交流** 祭りへの参加、小学生の相互訪問など



軍浦市

**人口** 27万4985人 **面積** 36.41平方キロメートル  
**交流** 中学・高校生の相互ホームステイなど



揚州市

締結 1984年10月23日

**人口** 約460万人 **面積** 6634平方キロメートル  
**交流** マラソン大会への参加など

## 自然歳時記

### ● オオアオイトトンボ ● アオイトトンボ科

光沢のある緑色をした美しいトンボで、大きさは4〜5センチほど。晩秋の夕方、水辺の樹皮に産卵するため、木陰のある池などでよく見掛ける／あつぎこどもの森公園の小川で見つけた。  
写真・文/吉田文雄



秋の柔らかな日差しの中、小川のほとりを歩いていると目の前を何かが音もなく横切った。錯覚かなと思った時、2匹の連結したトンボが目の前のミズヒキの茎に止まった。細い茎が揺れないほど静かな止まり方だった。

よく見ると、緑色の輝きが美し

いオオアオイトトンボだった。紅白模様のミズヒキの花が2匹を温かく包み込み、まるで結婚式のお祝いを見ているようだ。

思わぬ所でトンボの結婚式に立ち会えて、とても幸せな気持ちになった。トンボが安心して暮らせる環境であり続けることを願う。

**厚木市の人口** (10月1日現在) **世帯数** 10万1098世帯 (前月比38世帯増) **人口** 22万3743人 (前月比72人減) 男11万5709人・女10万8034人